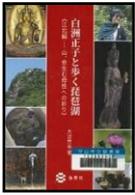


今月の PICK UP

『白洲正子と歩く琵琶湖 江南編』『白洲正子と歩く琵琶湖 江北編』
大沼 芳幸/著 海青社 S291.6 シ



白洲正子が歩いた近江の地を、著者が訪ねた本2冊をご紹介します。

白洲正子の著書が引用されていて、有名な場所でも知らなかった歴史を改めて知ることができます。また、写真もたくさん掲載されているので、読み進んでいくうちにより理解が深まり、訪ねてみたい場所も出てくると思います。

コロナで遠出がはばかれる今、県内の歴史深い場所を訪れるには絶好の機会かもしれません。

著者は安土城考古博物館の副館長を経た後、現在は文化財保護協会普及専門員であり、その見識はお墨付きです。

白洲正子の愛した近江の地とその歴史を学ぶことができる2冊です。

司書の おすすめ

『オウリと呼ばれたころ 終戦をはさんだ自伝物語』
佐藤 さとる/著 理論社 913.6 サ



終戦間もない頃、著者の佐藤さとるさんが米軍兵舎で働いていた時に、米兵から付けられたあだ名が「オウリ」です。激動と混乱の時代にあって、童話を書くという志を抱いた佐藤少年。自分のやりたいこととできることを考え、とにかく行動に移していく姿が、からりとした筆致で書かれています。

後の「コロボックル物語」に繋がるストーリーもところどころで顔をのぞかせていて、ファンには嬉しいポイントです。



『日本の美しいかき氷』 小池 隆介・市場 ゆりこ/著 旭屋出版 596.6 コ

今年もこの季節がやってきました。本書に紹介されているかき氷は、繊細に削られた氷、和洋様々なトッピング、盛り付け方など、どれもとにかく美しく、まるで芸術品のようです。「あさやけ」「アポロン」などネーミングも凝ったものが多いので、かき氷本体の写真と一緒に楽しみください。



『おばあちゃんは、ぼくが介護します。』 奥村 シンゴ/著 法研 369.2 オ



ヤングケアラーならぬミドルケアラーである30代男性による、祖母を在宅介護した6年間とその後の施設介護経験の記録です。介護するに至った経緯や、介護生活でのハプニング、在宅介護を無理なく続けるコツなどを章立てで分かりやすく紹介しています。働きながら介護を続ける中での思いや体験が率直に綴られていて読みやすく、合間には認知症や介護に関するお役立ち情報もあり参考になります。

『食べることと出すこと』 頭木 弘樹/著 医学書院 916 カ

著者は20歳の時に、国指定難病の潰瘍性大腸炎を患い重症化した結果、食事と排泄という当たり前の事が出来なくなっていました。その時彼が気づいたのは、「病とは、幸福のハードルを下げ、食べる事への感度を上げていく事だ」ということでした。

闘病記ではありますが、文学や映画のセリフを交えユーモラスで読みやすく書かれており、健康とは、幸福とは何かを考えさせられる一冊です。

